

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

マーク式・記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (**易化**・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

例年、試験時間に対し、問題量は多めである。

その他トピックス

なし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔Ⅰ〕	マーク式 空所補充	力学 (衝突・円運動・放物 運動・単振動)	物理	(5)から(8)は計算量が多いので、後回しにした方が賢明であったらう。 (11)(12)は回転するリングに通した小球の運動の問題など、類題を解いたことがあれば解答しやすかったらう。 他は基本的な問題であった。	標準
〔Ⅱ〕	記述式	電磁気・原子 (質量分析器・比電荷)	物理	一様な電磁場中での荷電粒子の典型的な問題。解答に使用する文字に気を付けたい。	やや易
〔Ⅲ〕	記述式	熱力学 (3室内の気体の状態変化)	物理	前半は気体の混合の問題で、内部エネルギーの保存を考えればよい。問9は、 PV グラフが直線となる状態変化であることに気づけば、難しくなかったであろう。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

標準的な入試問題集などに加えて、過去問などを通して見慣れない問題や複雑な問題にも対応できるようにしておこう。基本法則は原理に立ち帰って理解しておくことが必須である。

例年、試験時間に対して問題量が多い。典型問題には見られない要素も入っており、その場での理解力・対応力が必要である。また、迅速で正確な計算力を養っておくことが大切である。